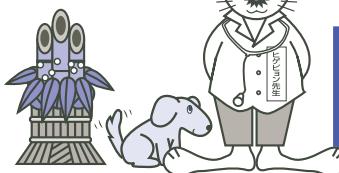


患者さん 質問箱

**Q**

インフルエンザがとても心配です。タミフルの副作用や、トリインフルエンザなどどう対策をとっていいかわかりません。
(インフルエンザが怖くて鶏肉まで食べられなくなった母)

A

インフルエンザはこの時期とても心配な病気の一つです。質問には様々な要素が含まれているようですから一つずつ分けて考えたいと思います。

トリインフルエンザ WHOの報告によればヒトのトリインフルエンザ患者は現在まで133名、死亡者は68名となっています。患者さんは中国、インドネシア、ベトナム、タイ、カンボジアなどで診断されています。トリへの感染はさらに広く日本や欧州でも発見されています。H5N1型のインフルエンザは人への感染能力は弱いのですが、いつ人への感染力の強力なインフルエンザになるか恐れられています。そうなればパンデミック、大流行がおこります。それは勿論今年かもしれません。

タミフルの毒性について どんな薬剤にも副作用はあります。薬剤の使用にあたってはその効果と副作用を理解して効果が上回ると判断した場合に決定します。タミフルの毒性に関しては2年前からいわれていたことは乳児の脳への影響でした。製薬会社(米国ロッシュ社)は依然として乳児への投与は認めていませんが、過去2年間の日本での使用経験からは急性期の大きな副作用はないようです。しかし脳への影響を考えると、使用された乳児の長期のフォローアップをしてみないとわからない点も多いようです。このような点から1歳未満では罹患した場合、予防接種をおすみの方はタミフルを使用しないで様子を見ることもよいと思います。また接種されていない方では脳炎・脳症を防ぐ意味で短期間のタミフル使用も考慮に入れるべきでしょう。最近注目されている毒性は急性期の毒性である興奮や意識障害または異常行動です。添付文書によれば頻度不明とあります。使用にあたっては家族など周囲の人が十分注意を払うことが大切です。そして解熱したら直ちに内服を中止することも必要です。医師のほうも漫然と5日間処方するのではなく、2日間や3日間処方を心がけるほうがよいと思います。

インフルエンザ対策 間違いないインフルエンザワクチンの接種です。現在のワクチンはトリインフルエンザには無効でも、従来型のインフルエンザに罹らないあるいは症状の軽減により体力の温存が可能となります。この体力温存こそが新型インフルエンザ対策となります。

一般的な注意としては規則正しい生活をして体力を蓄える。無用な外出は避ける。外出時にはマスクの使用。帰宅時には手洗い・うがいをおこなう。等、基本的なことしかありません。おかしいなどおもったらすぐに病院へ行ってください。そのときマスクをお忘れにならないでください。OCFCでは忘れてきた人のためにことしもマスクをご用意します。ご自由にご使用ください。またインフルエンザの疑いのある方はできるだけ別室でお待ちいただく方針です。

(OCFC院長)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども＆内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科(併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00
土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00
(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp



東急多摩川線矢口渡駅前



OCFC NEWS

2006年1月1日号

Vol.25

大川こども&内科クリニック

2006年花粉症情報

そろそろ2006年の花粉症の季節を迎えます。予防内服が貴方を快適な生活に導きます。予防内服の始める時期はスギの初観察日と飛散開始日の間でおこないます。都内ですとスギを初めて観察する初観察日は例年1月15日前後、スギが連続して観察される飛散開始日は2月初旬です。この期間に予防薬の開始と治療薬の準備をします。今年のスギの花粉量は昨年ほどではないにしても昨夏の好天気を反映して平均を上回ることが予想されています。1月中からの備えを

お忘れなく。

花粉症の治療として始めからステロイドの内服や注射を希望される人もいますが、副作用が多く避けられたほうが無難です。ステロイドの使用はスギ花粉のピーク時の1~2週間が目安です。

日々での生活での対策も必要です。部屋の掃除の仕方、空気清浄機の使用。外出時のマスクやメガネの使用。帰宅時の衣類の着替えや洗顔にも注意を払いましょう。OCFCでは花粉症対策のパンフレットを作り皆様にお配りしております。

変わる予防接種

4月から2歳以降の麻疹・風疹は有料です。お早めに接種されてください。

MRワクチン(麻疹・風疹混合ワクチン) 2006年4月解禁

4月1日より既に予防接種予診票を受け取られている方で2歳児未満の幼児を除き麻疹と風疹の予防接種の公費負担がなくなります。そして麻疹・風疹の混合ワクチン(MRワクチン)が使用されるようになります。生後12ヶ月から24ヶ月で1回、小学校就学前の1年間で2回目を接種することになります。日本もいよいよ欧米並みの制度になってきたわけです。4月1日で2歳未満である幼児は、それまで麻疹・風疹の接種を控えて4月1日以降2歳になる前にMRワクチンを選択するのもいいかもしれません。いずれか一方の予防

接種を受けている人は公費での接種はできません。

問題になっている点は4月以降2歳を過ぎている方は、MRワクチンも、麻疹・風疹の単独ワクチンも公費での接種ができなくなることです。4月以降2歳を過ぎる方で未接種の方は今すぐに麻疹あるいは風疹の予防接種を受けましょう。

日本脳炎ワクチンも新型に変わります。日本では夏になるとブタの日本脳炎抗体陽性率は70%を越えます。接種時期の方、昨年見送った方では今年は必ず日本脳炎を接種しましょう。

年末年始の診療

今年もOCFCは年末年始診療をおこないます。12月は28日まで通常の診療体制です。来年は4日より通常の診療に戻ります。この期間もインフルエンザ等予防接種ご希望の方には接種を行います。なお在庫が無くなったら終了となります。

- 12月29日 朝9時より午後3時まで
- 12月30日 朝9時より正午まで
- 12月31日 休 診
- 1月 1日 休 診
- 1月 2日 午前9時より正午まで
- 1月 3日 午前9時より午後3時まで

OCFC INFORMATION

感染症 だより

猛威をふるう感染性胃腸炎

7月、8月、9月と少なくなっていた感染性胃腸炎が11月、12月と急増中です。9月69名、10月113名が11月になって285名、12月は連日10~20名の患者さんがいらっしゃるようです。原因是ノロウイルス。汚染されたカキから感染がはじまりますが、感染力が大変強く、人から人へ糞口感染で伝染します。接触後24~48時間で激しい嘔吐で発症します。嘔吐は半日から1日半で治まり、下痢が少し長引くこともあります。熱は1~2割の方に出て38~39度と高熱が2日ぐらい続きます。園や家庭内でほとんどの方が感染することもまれではありません。おまけにこのウイルスは病気が治っても2~3週間便中に排泄されるようです。

対策として手洗い、うがいの励行です。汚染された衣類、タオル、寝具は熱湯消毒、食器、便座等は塩素系の消毒薬、洗剤で消毒してください。

乳幼児に注意 RSウイルスの流行 年長時ではマイコプラズマ肺炎にご注意

ことしの9月ごろから密かに発生していたRSウイルス感染症、10月、11月になって大爆発のようです。10月に7例、11月に13例、12月はさらに増加中です。4~5歳以上の幼児では単なるお風邪の症状しか示さないのに、1~2歳以下では細気管支炎をおこして、呼吸困難となり入院することもしばしばです。高熱と夜半から明け方の呼吸困難が特徴です。OCFCでは疑われる方が来院されると、迅速検査で確定診断、血液検査より細菌の混合感染を検査します。細菌の関与が低く、呼吸困難の強い症例に対してはステロイドの1回内服療法をおこなっています。劇的に改善される方が多いようです。このRSウイルスさらに厄介なことに気管支喘息になる可能性を高めるらしいのです。その意味でも早期のステロイド使用や喘息予防薬の内服に注目が集まっています。

RSウイルスが否定的な症例ではメタニウムウイルス感染症も考えられます。このウイルスでも同じように呼吸困難の症状が出ます。いずれの病気でも抗生素は使用しないか補助的に使用されるだけで、治療の主役ではありません。

マイコプラズマ肺炎は過去十年で最大の流行

3歳以上ではマイコプラズマ肺炎が大流行のようです。確定診断(血清で抗体価の上昇)した症例は10月8症例、11月6症例ですがおそらくその5倍以上の症例があると思います。様子を見すぎますと肺炎となりますので、早めにマクロライド系の抗生素を使用しています。それにしてもマクロライド系の薬の味は不味いようです。OCFCでは必ず内服指導をおこなっています。お薬の飲ませ方がわからない方はお気軽にお聞きください。

インフルエンザはどうなるの

11月21日にはじめてのインフルエンザAの患者さんが来院されました。幸い家族への2次感染は防げたようです。今年はタミフルによる興奮等の精神的な副作用も報告されていて、使用に当たっては十分な注意が必要です。またトリインフルエンザの流行も危惧されています。心配されているパターンは従来のインフルエンザが流行して罹患した人が、体力の十分な回復をみる前にトリインフルエンザに罹ることです。悲劇的な結果が予想されます。現在のインフルエンザワクチンがトリインフルエンザに直接無効でも、従来のインフルエンザに効果があればトリインフルエンザに余裕を持って対応できるわけです。その意味で間接的に効果が期待できるでしょう。

その他の感染症

流行性耳下腺炎や水痘は相変わらず大流行でした。流行性耳下腺炎は9月34名、10月31名、11月24名です。今回は2名のお母さんに感染して大変ご苦労されたようです。心配な方は是非抗体検査やワクチンの接種を受けてください。水痘の感染者は9月8名、10月5名、11月15名です。

溶連菌も9月7名、10月11名、11月35名と急増中です。溶連菌にはペニシリン系の薬剤が第一選択です。

夏風邪の手足口病(35名)、ヘルパンギーナ(43名)アデノウイルス感染症(20名)と冬に向かってもなくなりません。これからもご注意ください。

うさぎのママ だより

9月のご利用者は99名、10月は111名、11月は90名でした。稼働率は90~70%で特に11月はキャンセルで待たれていた方もほとんどご利用いただけた様です。キャンセル率は30~40%で約半分近くがキャンセルされています。1歳代のご利用が一番多く約半数で、次に2歳代、3歳代となっています。疾患は上気道に起因する発熱患者さんが多く、次に下痢・嘔吐、気管支炎などでした。

現在の登録患者さんは670名です。3月になりますと2006年度のご利用者の方の登録が始まります。登録は1年毎ですので、今年度の登録の方も書き換えが必要です。継続手続きをしてください。年内のご利用は12月27日まで、新年は1月4日からです。ご注意の上ご利用ください。

病診連携

9月、10月、11月検査依頼は6例、外来診療依頼は25名、入院依頼は22名でした。検査依頼は東邦大学放射線科に頭痛や手の痺れ感の精査で頭部MRI検査、日赤医療センター外科へ内視鏡検査でした。

入院は川崎病を東邦大学と日赤医療センター小児科に紹介しました。喘息重積で成人例は東邦大学内科、小児例は昭和大学小児科に紹介しています。成人の気胸は昭和大学内科に紹介しています。医科歯科大学小児科にはSLEの疑い症例や鼠蹊部リンパ節炎の患者さんを紹介しました。

肺炎の入院依頼はOCFCでの点滴治療が急増したため、激減しています。RSウイルス感染で東邦大学小児科、昭和大学小児科、蒲田総合病院小児科に紹介入院しております。脳梗塞の疑いで成人例を東邦大学に紹介しましたが、早期から治療が開始されたためか元気に退院されたようです。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

今年の血液学会は横浜でおこなわれました。院長は短期間でしたが出席することができました。東京小児科医会の雑誌に最近注目を浴びている衛生仮説(衛生志向がアレルギー疾患を増加させるという考え方)の解説をかきました。興味がある方には別冊を差し上げます。一般向けに雑誌びあに冬のおでかけトラブル対処法を監修しています。これで春、夏、秋、冬と4回監修したことになります。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(院長・三宅)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長・佐々木)
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(富沢)
木	内科・循環器(上田)	1・3・5水 じっくり外来(院長)	
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
土	小児科・内科(院長・荒木)	乳健・予接(1時~2時)	小児科(荒木:2時~3時)
	神経外来(荒木)	じっくり外来(院長:不定期)	
	発達心理(藤本)	栄養相談(関)(乳幼児、生活習慣病)	
	2・4土 アレルギー(大柴)		
日曜・祝日	9時~12時	休日診療・予接(院長・荒木・佐々木)	

乳健:乳児健診、予接:予防接種、ア:アレルギー疾患 慢:慢性疾患 栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
●毎週日曜日午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#		

※予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。
サービスコードの確認を、よろしければ0#誤っていれば1#で行って下さい。

※インフルエンザの予約は予防接種枠で希望される方は15#をプッシュして25#をおします。
一般診療枠、日曜・休日で接種を希望される方は19#をおしてください。

〈新検査機器紹介〉 パルスオキシメーター2001 新生児から低循環の老人まで正確に酸素分圧を測れる機器です。RSウイルス感染症の急増に対して急速購入しました。

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)
(3台)オゾン空気清浄・防臭装置(2台)電解水発生装置、消毒用専用スプレイザー

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター、チノバノメトリー、アトムネオテープル

院内設備・機器